

鹿児島県の昆虫81 「野外に生息するゴキブリの新知見」

昆虫担当 中峯 浩司

屋内で見るゴキブリは、身近な昆虫でありながら衛生害虫や不快害虫として位置づけられ、多くの人から嫌われる存在です。しかし、世界に4000種以上が生息すると言われるゴキブリのうち、屋内に侵入するゴキブリは1.0%にも満たず、その多くは森や草地で暮らしています。また、これらのゴキブリは、シロアリと同じように生態系の一員として自然界の物質循環に大きく貢献しています。

近年、県内外の研究者によるゴキブリ研究が盛んとなり、新種の発見や生態の解明が相次いで報告されています。ここでは、野外に生息するゴキブリに関する新知見をいくつか紹介します。

参考：企画展「ゴキの真実～のぞいて楽しむゴキブリの世界」令和7年7月5日～9月7日開催

1 鹿児島県のゴキブリ

ゴキブリは熱帯地方が原産で、南に行くほど種数は多くなります。鹿児島県は九州本島以北に生息するゴキブリの他、琉球列島にのみ生息するゴキブリを含むことから、ゴキブリの種数が最も多い県として知られています。国内に記録のあるゴキブリ約65種のうち、鹿児島県からは43種が記録されています。

2 フタホシモリゴキブリの国内初の発見

フタホシモリゴキブリは、国内では初めて鹿児島県指宿市で発見されました。その後、宮崎県や和歌山県でも見つかっています。本種は森林の林床や人家の庭先に生息する小型のゴキブリです。



フタホシモリゴキブリ
(提供:市丸智規氏)

3 ルリゴキブリ属の新種発見

日本からは従来、ルリゴキブリ属として石垣島・西表島に生息するルリゴキブリー種のみが知られていました。ところが、2020年になって奄美大島、トカラ列島悪石島、宇治群島宇治島からルリゴキブリ属の新種としてアカボシルリゴキブリが、与那国島と石垣島からウスオビルリゴキブリが新種として発表されました。さらに、翌年には宮古島



アカボシルリゴキブリ
(提供:市丸智規氏)

からベニエリルリゴキブリが新種として発表され、国内のルリゴキブリ属は4種となりました。

4 雌雄が翅をかじり合う珍しい行動

リュウキュウクチキゴキブリはタイワンクチキゴキブリの奄美群島・沖縄島亜種です。本亜種は、野外で採集される成虫の多くが雌雄とも翅端が欠けた状態で見つかります。近年の研究で、これはオスとメスが互いに相手の翅をかじり合っているためと分かり、他の昆虫では見られない独特の行動が注目されています。



リュウキュウクチキゴキブリ
左:翅は完全、右:生え際まで欠損

5 ゴキブリが担う花粉媒介や種子散布

サツマゴキブリは、スズメバチやカマドウマとともに暗い林床に生えるヤッコソウの花粉を運んでいます。同じく林床に生えるギンリョウソウは、果実に含まれる小さな種子をモリチャバネゴキブリに食べてもらい、移動した場所で糞をすることで種子を散布してもらっています。

昆虫による種子散布は珍しく、世界的な発見として注目されています。



ヤッコソウとサツマゴキブリ
(レプリカと標本)